



2019年ラグビーワールドカップ(W杯)の盛り上げに向けて女性ファンを獲得しようと、浜松市中区の静岡文化芸術大学の学生が制作に取り組んでいたPR映像がこのほど完成した。学生らが25日、市役所で記者会見し、お披露目した。

映像制作は県西部の女子大学生らがラグビーのPR活動を展開する「ラ☆ガール」事業の一環。学生有志ら30人が関わった。

映像は「学内撮影編」(30秒)と「ヤマハ発動機ジュビロ編」(15秒)を編集した計1分間の作品。

女性ファン獲得へ静岡文化芸術大生

PR映像で機運盛り上げ

学内編は、ラグビーをよく知らない同大の学生が基本ルールやスーパードレーを見た後の驚きや感

激を収めた。ジュビロ編は山本幸輝選手がラグビーの魅力を語る姿や試合観戦する女子学生の様子



ラグビーの魅力を伝えるPR映像の完成を報告する西野晴香さん(右)と杉浦光基さん(左)
＝25日午後、浜松市役所

をつなぎ、「ラグビー行こう」と呼び掛けている。

会見に出席した西野晴香さん(同大2年、沼津市出身)と杉浦光基さん(同、愛知県蒲郡市)が映像への思いを語った。

学内編の構成を考案した西野さんは「ラグビーをよく知らない同年代に、戦術を知り、実際に観戦すると見え方が変わると伝えたい」と話した。映像は、11月3日にエコパスタジアムで行う日本代表戦のパブリックビューイングで放映される。動画投稿サイト「YouTube」でも配信する予定。

(浜松総局・青島英治)

